

総務委員会会議録

平成26年2月10日（月）

午後1時30分 開会

○伊東英委員長

ただいまから総務委員会を開会します。

協議題1.「県外行政視察について」を議題とします。

先日の行政視察は大変お疲れ様でした。行政視察後のレポートを皆さんにご提出いただきましたので、順に補足説明のほうをよろしく願いいたします。

【 委員ごと順に補足説明 】

○伊東英委員長

ありがとうございました。企画部長いかがですか。

○堀寄敬雄企画部長

私は「ちばレポ」に興味を持って行ったのですが、視察に行っと思うことは、例えば千葉市の場合ではインテルという会社があったような背景や人口規模が違うなど、歴史が違うので、そこでやっていることを半田市に持ってくることを考えますと、実はなかなか難しい。一概に単純比較するのは無理だと思いました。しかし、その中でも千葉市では道路整備に対する要望をデータベース化するために6600万円の費用をかけているという説明を受けました。その要望を6600万円かけてデータベース化するだけの価値が本当にあるのかということは少し思いましたが、この辺も人口規模の違いで一概に半田のような町がそんなに出すのはどうかとも思いましたし、ただすごいと思ったのは、そういった一時的な情報だけではなく出てきた情報を整理して次にそれを活用しようという仕組みを作ろうとしている心構えというのは、実は半田の発想では実施して終わりみたいなイメージ。反発意識がありました。千葉市の発想は先へ先へとつながるような展開がついてきているところは進んでいると思いました。そういう意味では「ちばレポ」のインセンティブの話もそうですし、「ちばレポ」の実証実験の結果などは情報収集をしっかりして半田の「マイレポ」にも反映していきたいと思いました。もう一つ、帰ってきて担当にすぐ指示したことは、市民ポータル、市民の個人レベルのポータルを使うことによるプッシュ型サービスという言い方を視察の中ではしていましたが、その人のほしい情報がピンポイントで届くようなことを考えていると言っていました。これはつくば市で聞いたと思いますが、担当に話を聞いたら国が進めているマイナンバーの制度の中でそういうことを施行していくよう話が既にできておまして、半田市の中でも満更そういう発想がないわけではなく、今からマイナンバー制度の中でひよっとしたら否応なく個人レベルのポータルみたいなものを作る時代がすぐ先にあって、そういった意味ではかゆいところに手が届くような情報発信の仕方みたいなこともできる可能性は半田市にもあることがわかりました。他に参考にできると思ったのは、千葉市でいうとインターネットの事前申請。市役所に来る前にインターネットで用件を届けてもらおうと市役所に来るともう出来上がっていて、すぐに受け取れるみたいなところやつくば市ではいろいろなものを個人単位で情報発

信をしますが最後にはホームページにきちんと誘導してホームページの充実を心掛けていたので、せつかくホームページがあるので大事にしていこうという組み立てになると。そういう意味ではつくば市は戦略的にこの話を組み立ててやっているという印象を受けました。そして肝心のオープンデータですが、私の率直な感想としては、この先そういうことが起こることはわかりますが今、これについてすぐにこうやって取り組むという具体的なものが話を聞いていてイメージがわからなかったのも、ある意味時期尚早だと。千葉市やつくば市のように先進的に走ってもらって、いい展開があった時に半田市も飛び乗れるように準備をしておけばいいのかなど。私はオープンデータについては期待していたほどではなかったと感じました。あともう1点少し不安に思ったのが皆さんからも意見がありましたが、情報弱者の取組みをゼロからプラスになるから大丈夫ですという説明をされましたが、それは情報部局の職員なのでそういう説明ができると思いました。情報部局の職員ではなく市として考えた時にはやはりそこは何か考えていかななくてはいけないと答えなくてはいけないと思いました。情報のことだけやっているとはゼロからプラスになるのでいいと解決策みたいに聞こえましたが、私にとっては違和感がありました。結論としては、お金をかけずにできることはたくさんあるのでそういう意味ではできることから半田市もどんどん始めていっていいと。何かあって花開かないこともあるかもしれませんが、そういう意味では積極的に進めるべきかという印象をもちました。以上です。

○伊東英委員長

ありがとうございます。皆さんからの意見の提出を受けまして、いろいろ考えていただきまして、この視察は本当に先ほど部長が言ったようにオープンデータに関してはちょっと取り組むには大変なことだし、それからまだ千葉市でも取り組んだばかりという感じでそれを我々が参考にするのもちょっと無理だと思って聞いておりました。やはり千葉市でよかったことは、機構改革で総合窓口など、そういうことが参考になったと思います。ありがとうございました。

今、皆さんから意見がありましたが、そのことについて何かありましたらお願いします。これから、何回か委員会を開催して委員会報告を作っていきたいと思います。皆さんの考えていることを一致して進めたいと思います。また、次回の日程を決めて開催してやっていきたいと思いますがいかがでしょうか。今日に今日ではなく、またこれについて調整をして中身の濃いものを作っていきたいと思いますので。

○山田清一委員

今の意味ですが、各委員の意見が書かれたものを委員長がまとめていただいたものを次回出していただいて、それをたたきとして議論するということがよろしいでしょうか。

○伊東英委員長

それでよろしいですか。意見調整をしたいと思いましたが、お任せいただけましたら委員長、副委員長でたたき台を作ってやっていきたいとは思いますが。しばらく休憩いたします。

午後 2時11分 休憩

午後 2時31分 再開

○伊東英委員長

委員会を再開いたします。委員の皆さんからいただいたご意見を参考にして委員長、副委員長で視察のレポートを作らせていただいて、次回の委員会を一般質問の日程が未定ですので、確定後、決定しお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

その他、何かありましたらお願いいたします。

【なしとの声あり】

他にないので、しばらく休憩いたします。

午後 2時32分 休憩

午後 2時33分 再開

○伊東英委員長

委員会を再開いたします。

次に本日、午前10時から行いました総務懇談会「半田病院のあり方について」、委員の皆さまと意見交換をしたいと思います。

○中村宗雄委員

今日の午前の懇談会の件ですが、これで終わりなのか。何かにつなげていくのか。皆さんとお話しをして、そんなに時間をかける必要はありませんので。ああいう考え方もあるよね。で、終わりではさみしすぎるし、かといって、今から閉会中のテーマでそういうわけにもいかないの、そこをちょっと考えていただいて。

○伊東英委員長

本日の午前中の懇談会の話ですが市民の方がこの方向をちゃんとしてほしいというのを最後に議長に言っていったのか。

○中村宗雄委員

そうですね。いい話を聞いたということで終わるのはさみしい。

○伊東英委員長

委員の皆さまのところへも相談は数多くきており理解はしてみえると思います。何とかならないのかという話をよく聞きますが。病院の体制でいくとなかなか難しいとしか答えられなくて。何とかしてくれというのが市民の気持ちだと思いますが。今日は極端な話が聞けまして、いろいろと考えていかなくてはいけないと思ってもなかなかそれが所管の総務委員会だけ。病院事業として今の体制でやってきて、急性期病院からはずれて一般の病院に戻すわけにもいかないし。難しいですが。

○中村宗雄委員

どういうふうにするかという話をしているのではなく、少なくともボールを投げられた訳ですので、僕らがそのボールを持っていると腐ってしまうので、どこかにそのボールを投げなくてはいけない。投げられたボールをどうするか。そのまま病院に加工して投げ返すのが一番かもしれませんが、別にマスコミに持っていく話でもないの。どこかで意見集約をして病院に投げてあげるのが。聞いていても馬鹿みたいな態度をとっているところを見るとひどいと思う。潜在的にみんながダメ病院と言っている話は現実的であって。

○松本如美委員

制度上、国や県の医療制度の施策上にあるので、そうガラッと変えられない。今

の制度の中で半田市だけ予算作って、市民のところだけ膨らませるのはそれもなかなか厳しいと思う。ただ、そういう声を聞きますが個別の問題では対応できますが全体となると。特別委員会なり閉会中のテーマなりで。現状を把握する。どこかで議論する場を作って。今日言いましたが、入院している患者さんの情報を集約するしくみを半田病院ができているかどうか分からないので、そういうしくみを投げかけて会議に諮ってもらうことをどこかで。

○中村宗雄委員

今日、市民代表の方は実態把握と言われましたが、実際一方通行で聞いただけで本当はどうなっているかも知らないし、松本委員が経験された仕組みがあるのかどうかも知らないし。知った以上、実態を調査して制度まで変えなくてもちょっとした手段を変えるぐらいでコミュニケーションだけで乗り越えられるかもしれませんし。

○松本如美委員

それを閉会中のテーマまでいかに、もう少し柔らかいところで。可能ならば他の議員も聞いているかもしれませんので。

○石川英之委員

今日は、たまたま2件の事例を聞いたのですが、今回の2つの家族では全く求めていることが違って、片方は今まさに追い出されるところで、もう片方は何をどうしても亡くなった方は戻ってこないし、だけど今後このままでは半田病院がダメなのではという思いで来てくれていると僕は思っていますが。その中で病院の体制は変わりようがないということであるなら、やはり心のこもった説明や対応しかないと。だって病院を変えることはできないとみんなわかっていることなので。

○伊東英委員長

医師の説明がおろそかになっているのでこういうことが起こっている。

○久世孝宏委員

特別委員会とかで取り組むのも一つの手かなと思う。これは今まで言われていた課題じゃないですか。どれだけ一般質問などいろいろな場で言ってもなおらないということは、病院の能力が限界にきているという気がするので、そこを変えるには、閉会中のテーマか特別委員会かで、自治体病院の中で評判のいいところの仕組みをみるというのはある意味いいのかな。そういう病院があるのかどうか。

○中村宗雄委員

終わってから市民の方と外で10分くらい話していたのですが、事務局の言っていたことが悪いなと思って。担当医師の判断は間違っていなかったと言い張ってくれたじゃないですか。結果では転院後2週間もたたずに亡くなってしまった。だからそれで裁判を起こそうとしているという話ではなくて、ちょっと反省すべき点があったとか。人間としてどうなのかとか。担当医師は研修医みたいに若い人で何か言うと怒る。看護師などに言っても医師がやめさせてもらう。という話になっても困るので医師に言わないそうです。医師のやりたい放題。何で調べてくれなかったのか。と言っても人間ドックではない。と言われたらしいです。

○松本如美委員

医師としての問題意識だとか。今回の件でも、何か形を作って投げかけないと変わ

らない。

○中村宗雄委員

調査していくと結局最後は医師や看護師不足が原因に落ちてしまうかもしれない。わかりませんが。起きている現象はだいたい今日わかりましたが、原因がどこにあるかわからないし制度なんて変えられるわけがないので。どこかで器だけをつくらせてもらって、これは年度末に差し掛かってくるので、上手く申し送れるかとか今年の総務委員会で能力はないという中で問題点だけ整理して送ってもらうとか。いろいろやりようがあると思いますので考えていただいて。

○伊東英委員長

私はもう一度、病院側と話をしたいと思っております。今日お話しは聞きましたがもう少し詳しい話を聞きたいと思いました。

○松本如美委員

結局医療制度の大枠があるので。地域医療として半田市内で完結できればいいが。

○石川英之委員

委員長が言うように病院事務局の3人ともう一度話し合いをしたら医師の愚痴ばかりになるかもしれない。

○松本如美委員

公立病院では結局事務局は意見を言えない。高価な医療機器がほしいと言うと事務局は嫌とは言えない。公立病院には悪しき伝統がある。

○中村宗雄委員

以前、東海市の小嶋病院の医師の話を勉強会で聞いた時には、知多半島医療圏の病床数は既に過剰。それで常滑市にさらに作ったら過剰にさらに過剰。でもつぶれるわけにいかないなので、つぶれないために地域医療連携のしくみがあって、急性期病院にきた患者を割り振らなければいけないしくみになっている。

○伊東英委員長

医師も接遇研修をやっていると市報などに書いてあるが。

○中村宗雄委員

実態を見たことがない。そういう意味では実態調査を議会が少し入り込んでいって、理念に掲げている「地域の皆さんに信頼される病院にします」と言っているわけですから、評判は悪いですね。

○石川英之委員

総務委員会から議長に申し送って、議長から総務委員会なり特別委員会を作ってもやってくれみたいなことを言えば。

○山田清一委員

私は今日、地域医療ということから言って今後の医療と介護の関係で考えると包括的なものが必要。そうすると病院だけでは解決できないので、逆にそうすると特別委員会のほうが動きやすいのかなという感じはしますが。ただ現状だと常任委員会で部をまたいでそういうことも可能ですか。地域包括ケアシステムが今、医療と介護、地域で一体的にという流れで考えると特別委員会のほうが視野広くやれる。

○中村宗雄委員

仮に特別委員会でやるにしろ常任委員会でやるにしろ、今我々が知っているこの温度感を今度全員協議会で委員長に報告いただいて、まず全議員で同じ温度感にしないと何でこんなことをやるんだという話になってくるので。その部分を皆さんに伝えて、こういうことで来年度、取り組むような問題で接遇が悪いなんてそういう話ではなくて、山田委員が言ったような少し枠を広げてどうしなければいけないのかと考えていかななくてはいけないという問題だという認識が持てるところまで作ってください。そうしたらそれを申し送ってもらう。来年度のテーマとして特別委員会なのか常任委員会なのかわからないなかでもどこかにつながっていくようにして、今日のことが無駄にならないようにしていきたいと思いますので、まず直近の全員協議会でまとめて、主に何をなぜおでかけ委員会にせずに総務懇談会として開催したかということ搔い摘んで10分程度で問題共有できるようにしていただけないでしょうか。

○伊東英委員長

で、来年度に申し送るということで。全議員で共有する。

○石川英之委員

うちの総務委員会としては、こういうふうに申し送りを議長にお願いする。ということでもいいのではないか。

○山田清一委員

この問題は過去の医療制度の流れから現在があり、なおかつ医師、看護師としてまた病院経営。非常に法的に多くの課題がつまっているので、これは滅茶苦茶重い。知れば知るほど深刻。

○松本如美委員

国の制度にいつてしまうと国と喧嘩になってしまうが、もう少し身近なところで、半田病院の環境の中で。

○中村宗雄委員

だから半田病院のやり方を、半田病院だったらこれは我々が予算審議している機関ですから、我々の影響が及ぶはずですよ。大きな背景を捉えながら小さくいかないと。大きな背景どうこうだと何もできない。

○松本如美委員

特別委員会のほうがいいかもしれないな。総務委員会しちゃうと。

○山田清一委員

総務委員会だと縛りがある気がします。

午後 2時54分 終了

【知多中部広域事務組合の県外視察の報告】

○久世委員が簡単に報告

午後 3時00分 終了

○伊東英委員長

では、そういうことで次回の全員協議会で、次回の総務委員会か特別委員会へ議長に申し送りするという事までで報告したいと思いますので、病院関係の件はそういうふうにしたいと思います。お疲れ様でした。

これで総務委員会を閉会いたします。